



市民活動団体交流会の皆さま

大阪狭山市の 認知症事業の取り組み



令和5年8月26日
大阪狭山市地域包括支援センター
保健師・認知症地域支援推進員

岩橋 真美

大阪狭山市では・・・

人口 : **58,018人** (令和5年7月末現在)

65歳以上人口: **16,305人** (令和5年7月現在)

認知症高齢者 : **2,445人** (推計/高齢者人口の15%)

軽度認知障害 : **2,119人** (推計/高齢者人口の13%)

大阪狭山市でも・・・

団塊の世代の方が75歳を迎える2025年には、
約3,000人あまりの方が認知症を発症する可能性がある
と推定される。

「認知症があっても、ともに暮らせる まちづくり」をすすめる
ために…「**認知症サポーター**」の養成を進めています。



認知症初期集中支援チーム



認知症初期集中支援チーム員の構成

◆チームは大阪狭山市は包括支援センターに設置

◆チーム員：

専門医
(1名以上)

医療の専門職
(1名以上)

福祉の専門職
(1名以上) ⇒計3名以上



【支援の流れ】



相談を受けた翌日から1週間以内にチーム員が
ご自宅を訪問し困っていることをお聞きします

チームの専門職とチームの専門医 包括支援センター職員
市職員などで会議をし、困っていることへの支援の方法を検討します



訪問 会議を繰り返し最長6ヶ月間



医療機関や介護サービスの利用
身体を整えるケア 生活環境の改善につなげます

引継ぎ後 2ヶ月後以内に訪問

医療や介護サービスが継続できているか
認知症にかかる支援・対応に課題が生じていな
いかをお聞きします



医療・サービスに繋がった事例

◆ 地域包括支援センターより相談

【本人】

- ・夫は数十年前に亡くなり独居
- ・以前は通っていたが、かかりつけ医なし(服薬なし)
- ・ゴミの日がわからない
- ・近くに住む、娘が来るのを心待ちにしている
- ・「私は元気。悪いところはありません」



【娘】

- ・近所の人から表に出てウロウロするので危ないと再々言われる
- ・警察まで来た
- ・どこも悪くないと思っているので、病院には行かない
- ・デイサービス等には行きたくないと言う。どうしたらいいかわからない



医療・サービスに繋がった事例

◆ 地域包括支援センターより相談

【本人】

- ・妻は数年前に亡くなり独居 妻に全て頼っていた
- ・以前は通っていたが、かかりつけ医なし(服薬なし)
- ・ゴミの日はわからないが気にしていない
- ・近くのコンビニには行くが、揚げ物が好き
- ・近くに住む次女、隣市に住む長女が毎週訪問し家事支援
- ・「娘達が来てくれるし、困ったことはないよ」



【娘】

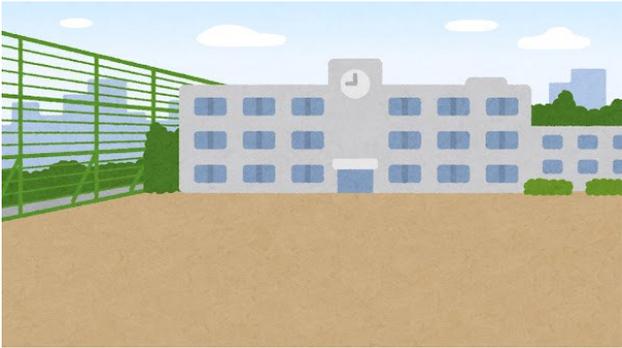
- ・本人は大丈夫って言うけど、忘れっぽい
- ・病院に行く約束をしても次の日には忘れている
- ・これ以上、認知症が進行したらどうしよう
- ・私達も家庭や仕事があるので、ヘルパーさんにも手伝ってもらいたい



相談内容の例（こんな方近くにいませんか？）

- ◆ごみ屋敷になっていて近所が心配・迷惑している
- ◆人を寄せ付けないで家にこもっているらしい
- ◆娘さんが会いに行っても玄関のドアを開けないので誰も家に入れない
- ◆認知症の人を介護している家族が倒れそうなのに介護サービスを受けようとしていない
- ◆夫の物忘れがひどくなってきているが、このままでいいのか心配だ
- ◆認知症の人を家族が怒鳴ったり、時々叩いたりしている。このままでいいのかわからない





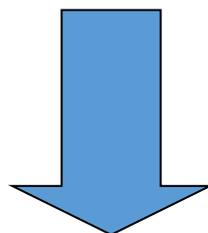
認知症サポーター養成講座 皆さんに伝えていること



認知症サポーターとは？

何か特別なことをする人ではありません。

「**認知症**」について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族に対して、温かい目で見守る
「**応援者**」です。



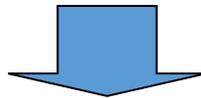
認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する「**認知症サポーター**」を1人でも増やし、暮らしやすい地域をつくる。

【認知症サポーター100万人キャラバン】とは？

NPO法人「地域ケア政策ネットワーク」と厚生労働省が協同で取り組んでいるキャンペーン

「認知症を知り地域をつくる10ヶ年」

認知症講習会受講者（＝「認知症サポーター」と呼ぶ）
100万人を目指した取り組み



令和5年6月30日現在

全国で1,464万人！

どんな人がサポーターに？

たとえば・・・

- 警察官、消防署・市役所の職員
 - 郵便局員、農協職員、銀行員
 - スーパーの店員
 - 商店街の人
 - タクシーの運転手
 - マンションの管理人
 - 小学校、中学校の生徒
 - 地区福祉委員、民生委員
- ・・・等々

大阪狭山市消防本部



小学生・中学生の子どもたち



南第三小学校



南中学校

地区福祉委員会・自治会



北小学校
東地区福祉委員会



南第一小学校
南第一地区福祉委員会
声かけ訓練

認知症の症状

脳の細胞が死ぬ

中核症状

記憶障害

見当識障害

理解・判断力の障害

実行機能障害

その他(失行・失認・失語)

性格・素質

環境・
心理状態

認知症の行動・心理症状

不安・妄想

うつ状態

介護拒否

異食

興奮・暴力

不潔行為

一人歩き

7. 本人へ関わりについて

①一人ひとりがみんな違うということ

- ・生まれ育った環境・地域
 - ・歩んでこられた生活史
 - ・今の生活状況（同居有無・近隣とのつきあい）
 - ・うれしかった / 悲しかったこと
 - ・好きなこと / 苦手なこと
- パーソナリティ（価値観、考え方、感じ方）

行動のあり方や困りごととも十人十色。

理由・対応を考えるためには、

本人に興味を持ち、知ることが重要

③本人の言葉を聞く。

本人の声には・・・

不安、不自由なこと

不快、苦痛、不満

関心ごと、したいこと

行きたいところ

会いたい人 etc・・・



本人の思い…

- 実に残酷な病気です。僕に分からないときに何かが起こる。
(男性A)
- 本当に自分が残念で、人間失格っていうか、これで私も人生終わりでないか、とすごく落ち込みました。
(佐野光孝さん・62歳)
- 病気だからおとなしくしてほしい、というのではなく、社会に出て行くには、どうしたらよいのかなどを一緒に考えてほしいです。
(藤田和子さん・49歳)



- 言い方、話し方に気を付けてほしい。少しきつく言われると、怒られているように感じる。
- 自分が失敗しているのは気づいている。周りがうまくサポートしてほしい。
- 忘れても教えてくれる社会、失敗してもいい社会、認知症をオープンにできる社会になれば・・・

「認知症の人は何も分からない」

は大きな間違いです！



物忘れによる失敗や、今までできていたことができなくなり、誰よりも早く「おかしい」と感じ始めるのは本人です。

「私は物忘れなんかしていない！」と言い、周りの人を困らせることもあります。その時の気持ちには悲しみや不安が隠されているのです。

関わり方のポイント

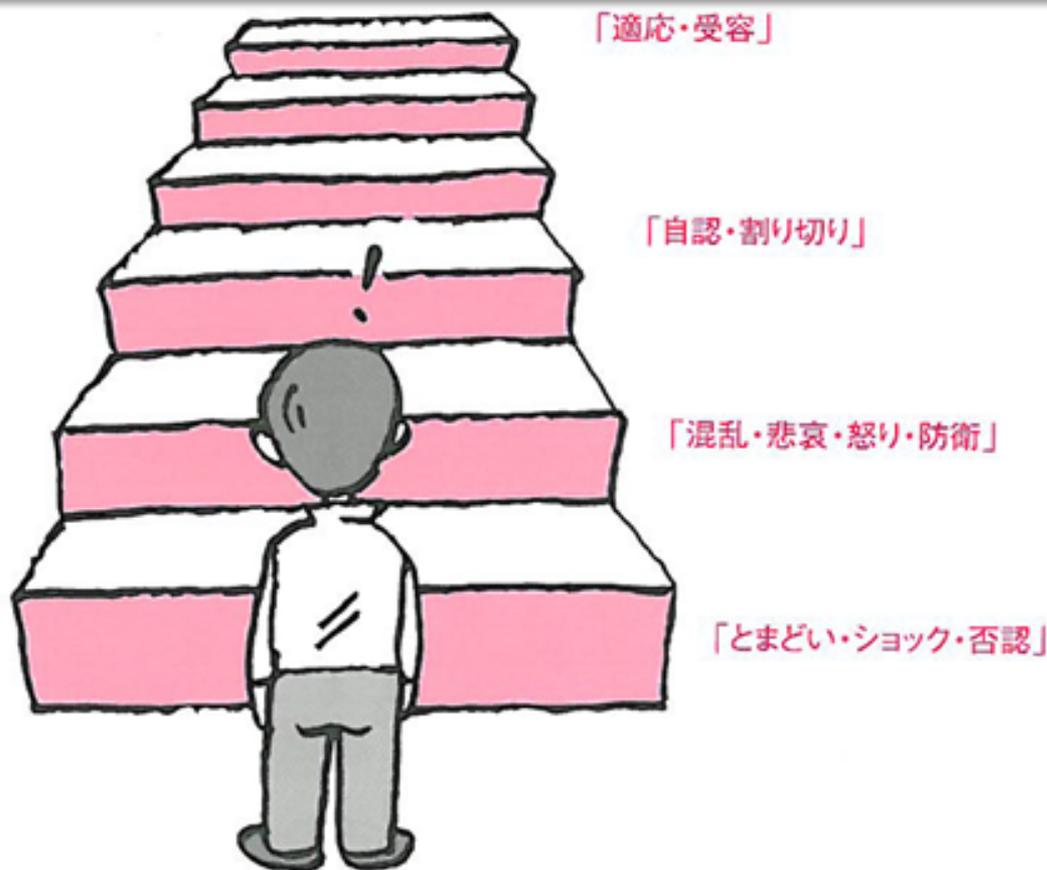
★マイナスの関わり

- 失敗を指摘する
- 急がせる
- 一度にたくさん
- 怒り顔
- 否定
- 手を出す
- 何もすることがない

★プラスの関わり

- 失敗は見て見ぬふり
- ゆっくり
- 少しずつ
- 笑顔
- 話を合わせる
- 少し待つ
- 出番、楽しみを作る

5. 家族などの介護者の思い・心のあり方



●先の見えない長い階段で介護者は、時に立ち止ったり、戻ったりします

●介護者の心理状態

認知症のある本人に関わる家族の声

①認知症のある母親と同居する女性

母は、日に20～30回と手洗いに立つ。初めのうちはトイレに行ったばかりであることを伝えていたが、いつからか伝えることをやめて、楽になった。

夕方になると、散歩に出掛けようとする。初めは止めることもしていたが、今は一緒に出掛けるようにしている。

母の行動に対し、気が立つこともあるが、関わり方を変えることで気持ちに余裕を持てるようになった。

できるだけ、母と家で暮らしたいと思う。

認知症のある本人に関わる家族の声

②認知症があり、施設で暮らす母親をもつ女性

施設で暮らす母には週に一度面会に行っている。

一時は関係が悪くなった母であったが、今では面会に行くことを楽しみにしている。

娘の私を自分の妹(女性の叔母)に取り違えることがある。

初めは正していたが、母は私と会うと毎回とても良い表情をしてくれる。そのことを考えると、正すことは重要でないと思うようになった。

想像してください。

もしも自分に認知症の中核症状が現れたら・・・

1. あなたはどのような気持ちになりますか？
2. どのような行動をとると思いますか？
3. その時どのように接してほしいですか？

認知症サポーターになる皆さんへ

- ・ **自分たちの問題**であるという認識を持つことが第一歩
- ・ 認知症の方は、さまざまな不自由を抱えて、不安を感じながら、**今を懸命に**生きておられます。
- ・ **こころは豊かに生きています**。失ったものもありますが、**できることも沢山あります**。
- ・ 認知症の人の応援者・・・認知症について**正しく理解し、偏見を持たず**、認知症の人や家族に対して**温かい目で見守って**ください。
- ・ 地域や職域で、**自分がどんなことができるか**、一人ひとり考えていくことが大切
- ・ **認知症の方が生き生きと暮らせるように**、生活を守り、維持していくためのご協力をお願いします。

9月のアルツハイマー月間のお知らせ

令和5年9月1日～29日

【市役所・図書館・さやま荘】啓発活動



さやま荘で実施予定

- ・無料相談会（令和5年9月21日・22日）
- ・認知症サポーター養成講座（9月22日）



認知症に関することは・・・

地域包括支援センターへご連絡ください。

認知症地域支援推進員が、ご相談をお受けします。



大阪狭山市地域包括支援センター

○狭山1丁目862-5（市役所南館）TEL：072-368-9922

○大野台2丁目1-5（コミュニティセンター内）

TEL：072-366-5566